

企業の実態把握や支援につながる決算書の変化はこのようにヒアリングしよう

決算書の変化から、企業の実態把握や支援につなげるためのヒアリング方法について解説します。

1

前期と比べて 現金・預金が増加している



前

期と比べて現預金が増加している場合、想定される要因は以下のとおりです。

- ① (借入金返済を上回るような水準の) 利益が出た
- ② 借入金が増加した
- ③ 固定資産が減少した
- ④ 運転資本が減少した (売掛金の減少や買掛金の増加)

これらのうち、どれが主要な要因かという点は損益計算書を確認したり、前期の貸借対照表と比較したりすることで確認で

きます。そのうえで、例えば固定資産を売却していることが読み取れたら「なぜ売却されたのですか?」、借入金が増加していることが読み取れたら「なぜお借入れをされたのですか?どこからお借入れされたのですか?」等の問いかけで、取引先の実態把握に努めましょう。

一方で前期と比べて現預金が増加している場合、最も気にすべきポイントは「増加した現預金の使い道は何か」です。

貸借対照表の変化を見れば、起きたことある程度読み取れます。ただ、今後のことについてはわかりませんので、しっかりとヒアリングを行うことが望まれます。今回のケースでは、例えば増加した現預金を使って「設備投資をしようとしている」「借入金を返そうとしている」等が想定されます。このような取引先の考えや意向をいち早く把握することでビジネスチャンスに繋げることができた

り、取引の縮小を未然に防ぐことができる可能性があります。以下は取引先への質問と回答に対する対応例です。

補助金や税制の紹介などにつなげる

まず「前期、〇〇(現預金増加の要因)なので現預金が大きく増加しています。増えた現預金の使い道は決まっていますか?」等と問いかけます。それに対し「設備投資に充てたいと考えている」との回答があった場合、設備投資時に使える補助金や税制の紹介をしたり、「設備投資によって売上が増加すると考えられます。そうすると必要な運転資金も増加するので、設備投資の一部は借入れしておきませんか?」等と提案したりすることも考えられます。

また、他行庫からの借入れの場合、「〇〇銀行さんから、期末に借入れをし、余っているので御行の借入金を繰上げ返済